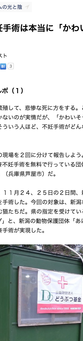
あなたにオススメ
Recommended by Outbrain



不妊手術を行う公益財団法人「どうぶつ基金」の獣医師ジュー新潟県撮影

社会・カルチャー 猫ブームの光と陰

野良猫の不妊手術は本当に「かわいそう」なのか？

新潟県 / ジーナ・ジュリアス　2016年11月30日

不妊手術・現場ルポ（1）

捨て猫は大量に繁殖して、飢餓や死に方をする。この不幸の連鎖を止めるには不妊手術しかないのが実情だが、「かわいそう」と二の足を踏む人も多い。だが、そういう人は、不妊手術がどんなものかを、知らないのではないか。

そこで不妊手術の現場を2回に分けて報告しよう。国内のあちこちに出かけ、野良猫の一斉不妊手術を無料で行っている団体がある。公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）だ。

どうぶつ基金は、11月24、25日の2日間、新潟市で一斉不妊手術を行い、計59匹を手術した。今回の対象は、新潟市の東のはずれ。新潟東港野台公園に仕切られた、県の所定を受けている約1ヘクタール。ボランティアジュージ、と、新潟の動物保護団体「あにまるガード」が、同基金に依頼して一斉手術が実現した。

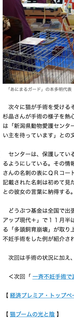
一斉手術が行われた動物保護団体「あにまるガード」の拠点の一部＝新潟県撮影

捕獲器の外から麻酔を注射

11月25日。一斉手術の2日目に現場を訪れた。新潟市南西部の山すそにある、「あにまるガード」の活動拠点の小屋で手術が行われた。新潟東港の公園で捕獲された猫が、ケージや捕獲器に入れられ、車で次々と運ばれてきた。そのほとんどが子猫だった。

手術にあたるどうぶつ基金の獣医師は2人。それにあにまるガードのスタッフら数人が補助を行う。猫の不妊手術が可能になる目安は、生後半年以降の体重2キロ超とされる。ただ、医師の説明によれば、もっと早くても大丈夫だ。

まずはケージや捕獲器の外から、体格に応じた麻酔薬を注射する。麻酔薬が効いて注射していく。逃げられたりかまれたりしないようにするために、完全に麻酔が効いたら外に出す。



捕獲器のまから麻酔を注射する＝新潟県撮影

次に不妊手術の証しである耳カットを行う。地域や団体、医師によって先端を平に切ったり、オスは右耳、メスは左耳の先を切ったりするなどの違いがある。どうぶつ基金の場合は性別を問わず右耳の先端を平にカットする。その耳の切り方、手術後の目を「さくらねこ」と呼ぶ。

切った後はほんだごとを使って傷口を消毒。合わせて手術を行う下腹の部分の周囲の毛を、バリカンで注意深くそる。

麻酔し、右耳の先端をカットする＝新潟県撮影

手術の日は、朝から食事させないのが通例だ。全身に麻酔が効くと嘔吐（おうと）することが多く、胃に固形物が残っていると誤って肺に入ってしまう。死んでしまいかねないからだ。一斉手術の場合は野良猫なので、そうした管理も難しく、ときには深夜（ふかんよる）を選ぶことも多いという。その場合は、腹をマッサージしてすべて排泄させる。

いよいよ手術だ。手術台の上は、詳しくリポートする。

猫部にも見守られる猫たち

不妊手術が終わると、もとの地に放される。これから冬本番の新潟で、猫はどこまでなのかとも思う。だが、あにまるガードの冬季作戦に、ある、池の近くに南北天然ガス（LNG）施設があって身を隠すところがあり、冬場でも生きていけるという。猫部たち思うものにならないあ生分、猫たちを年に見守っていようという。

「あにまるガード」の本多明代表（右手前）＝新潟県撮影

次々に猫が手術を受けるなかで、県動物愛護センター主食で獣医師の上杉晶さんが手術の様子を熱心に動画撮影していた。上杉さんの名前の裏には「新潟県動物愛護センター以自分が猫部分たくさんの犬や猫が新しい飼い主を待っています。と の文字と、猫の写真が印刷されていた。

センターは、保護している動物の情報をインターネットで詳細に見られるようにしている。その情報に携帯電話でアクアセンドできるよう、上杉さんの名前の表に QRコード（二次元バーコード）が。ここまでの情報が記載されたあれは初めて見た。「新潟県は動物の愛護意識が高いです」との政策の言葉に納得する。

どうぶつ基金は全国で出張不妊手術を行っている。NHKの「クローズアップ現代＋」で11月半ば、大量繁殖した猫が無いさの手に負えなくなる「手頃料背猫」が取り上げられた。その番組で、この団体が8日の不妊手術をした例が紹介された。

次回は手術の状況に加え、どうぶつ基金の全国での活動を紹介する。

次回は「一斉不妊手術で減らせる野良猫と子猫の悲劇」＞

【経済プレミア・トップページはこちら】

【猫ブームの光と陰】

【（1）「子猫300万円?」ネコミクス市況の裏にあるもの】

【（2）都内殺処分2O3匹をゼロ近所したから地知事の本気度】

【（3）「猫の飼い主探し」ボランティア嫌の限界】

【（4）猫ブームを裏で支えるペットオークションの実態】

【（5）売れ残った大猫がたどる悲しい運命を知っていますか】

【（6）飼い主探し目的も 10年で100倍「猫カフェ」多発化】

【（7）多摩川に捨てられた猫たちがたどりつく先は】

【（8）捨てられてのたれ死め野良猫たちの悲惨な最期】

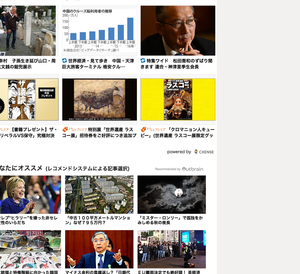
新潟県
ジーナ・ジュリアス
1966年、山口県生まれ。83年に新潟県国際校に入れ。会社や官庁・酒造などの業界専門紙を担当した。2O2O年、米国北ブルームバーグ・ニュース上海、ソ、下関通信社編・オンラインなどを勤めた後、1 4年に独立してフリーに。

関連記事

- 超ヒットビジネスを埋った赤ちゃんビジネスの仕方
- 「星見の少年」を知っていますか？ 新潟県の世界遺産
- 歴史人口学者トッドが予言「ポエニトの反乱は起こる」
- 強い者だけが勝つとは限らない工場に「魔物」はいたか
- 「年金減額」高齢者の現実は国会議員に伝わったか

社会・カルチャー
速報 猫ブームの光と陰
前の回を表示 次の回を表示
経済プレミアのトップへ

注目コンテンツ



犯罪小説集
ベスト
ベスト
中西
ベスト
ベスト
ベスト